

令和8年3月発行

環境学習推進センター情報誌

第58号

Contents

やまぐち

Well-being

# eco サポート

発行元 公益財団法人山口県ひとつくり財団県民学習部

- ◇ 令和7年度環境活動団体等交流会
- ◇ 環境学習講座を開催しました
- ◇ 宇佐川（岩国市錦町）のオオサンショウウオの保護活動
- ◇ 令和7年度山口県環境学習功労者知事表彰受賞
- ◇ 令和7年度やまぐちっ子「環境レポート」優秀作品
- ◇ 環境学習の講演会・学習会を開催してみませんか

## 令和7年度環境活動団体等交流会



令和8年1月25日(日) YMfg維新セミナーパーク 【参加者55名】

環境学習推進センターでは、環境活動団体等との交流や活動状況等の情報共有を通じて、全県的な環境学習の充実・拡大等に取り組んでいます。今年度の交流会は、野外体験活動の専門家からの講演と県内環境活動団体からのポスターセッションによるプレゼンで構成して実施しました。

### 講演 「体験活動と環境学習」

(株)FEEL 代表取締役 井上 桂

下関市深坂自然の森所長を務め、県内でアウトドア体験施設等を運営する(株)FEEL代表の井上桂氏から、長年にわたり指導者として培われたノウハウを交えた野外体験活動の事業企画・運営についての講演をいただきました。

井上氏は、体験活動を実施する中で特に「環境学習」のワードは使っていない。あらゆる活動の中には環境要素があり、これを体験する中で教えている。また、活動のルート選定はもとより、野生動植物への配慮、活動の痕跡を残さないことなど、「環境へのインパクトをできるだけ少なくすることに配慮している」。さらには、宿泊学習においては、本番に備えた事前学習の際に、子ども達に配布する学習のしおりをほぼ空欄で渡し、個人個人で完成させていることや、参加者の様子を見ながら本番に備えた宿題を出していることなど、様々なプランニングを検討しながら進めていることなどをわかりやすく話されました。

参加者からは、井上氏の講演は「視点が新しく、聞くこと聞くことが新鮮な感覚」、「自身の活動を進めていく上で大変参考になり、興味深く拝聴できた」との声が聞かれました。



### ポスターセッション

- |                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| 「森林セラピー山口～さまざまな協力のかたち」       | 山口市徳地森林セラピー基地    |
| 「海の環境を守って地域交流と活性化」           | 屋代島さとうみネットワーク    |
| 「島田川と海をつなぐ流域づくりについて」         | ひかりエコメイト         |
| 「『自然が好き』で世界を変える～シェアリングネイチャー」 | 山口県シェアリングネイチャー協会 |
| 「日積の自然環境を活かした地域づくりについて」      | Seeds            |

ポスターセッションは、1つの会場内で同時に多数のプレゼンができ、参加者の求めに応じて対話ができるなど、参加者同士の交流がより深まることから、本交流会で初めて導入し、プレゼンしていただく団体は、井上氏の講演テーマを踏まえ、自然体験や野外での環境保全・学習活動を実施する5団体を選定しました。

出展されたポスターはどれも、デザインがすばらしく、活動目標、課題や今後の展望などがわかりやすく示され、参加者との対話を交えることで、更なるそれぞれの活動に対する理解が深まったのではないかと思います。

また、短時間の間に、参加者とプレゼン団体の間で活発な意見交換が行われ、本事業でこれまで課題としていた、「環境関連活動団体の交流の促進」に対して、少しながらも成果があったのではないかと考えます。

アンケート結果からも、「よい会であった。ポスターで多くの人との会話ができた」、「一度にいくつかの事例に触れられ、直接対話できるので有効」、「ポスターセッションとしたことで、環境団体の方と気軽に交流することができた」など、概ね好評でした。

次年度もこのスタイルを継続し、講師、出演団体などを検討したいと考えています。

# 健全で恵み豊かな環境の保全と創造に向けて 環境学習講座を開催しました



令和7年11月1日（土）  
気候変動の影響が身近な樹木に忍び寄る

受講者  
31人

地球温暖化の進行による身近な樹木の変化に“気づき”、“知る”ことで気候変動がもたらす影響について考える講座を、山口県気候変動適応センター専門研究員の元永直耕氏、恵本佑氏及び山口県樹木医会の中村裕三氏、草野隆司氏を講師に、萩市笠山で開催しました。

気候変動適応センターからは、気象観測や将来予測データを示しながら、極端な高温、海洋熱波、大雨の発生などの状況や「やまぐち気候変動適応情報プラットフォーム（YPLAT）」による気候システムの変化に関する情報を発信するとともに、「これって気候変動？みんなで調査！」に取り組み、県民からの気候変動に関する様々な“気づき”に関する情報を収集し、見える化して発信していることを詳しく紹介していただきました。



YPLAT



これって気候変動？  
みんなで調査！



山口県の最高気温比較（1985→2025）



やまぐち気候変動適応情報プラットフォーム



これって気候変動？みんなで調査！

県民のちょっとした“気づき”を取集・公開しています。

- ①気候変動に関する“気づき”  
自然生態系、暑さ、雨の降り方
- ②山口の“今”に関する情報  
開花、鳥類、生物の発生



出典：山口県気候変動適応センター（講座資料から抜粋）

中村樹木医からは、樹木医会と県が作成された「これって気候変動？みんなで調査！ガイドブック2024～やまぐちの樹木編～」を用いて、樹木の観察ポイントや近年の変化などを紹介されました。

中でも、異常気象で弱った街路樹などに、特定外来生物のツヤハダゴマダラカミキリが産卵し、幼虫により枯損してしまう被害が顕在化していることを、害虫のサンプルを示しながら説明していただきました。



出典：これって気候変動？

みんなで調査！  
ガイドブック  
ガイドブック2024 デジタル版



草野樹木医からは、天然のクーラーといわれる風穴を有する笠山は、その特殊な環境下で、温帯と寒帯の植物が共存する貴重な植生が存在していることなどを詳しく紹介していただきました。

具体的には、風穴からの冷気が漂う谷の底部には、北海道などにみられる「ホソイノデ」（寒地性のシダ）が自生し、谷の斜面上部には西日本の山中にみられる「カタイノデ」（暖地性のシダ）が自生している。さらに、斜面中部には、これらのシダの交配により、笠山にしか存在しない「カサヤマイノデやカタホソイノデ」が自生するなど、他では起こりえない特殊な植生があり、草野樹木医は、地球温暖化の進行により、こうした貴重な植生の変化が懸念されていることを強調されました。

ホソイノデ →  
北海道・中部山  
岳地帯に自生  
（寒地性）



カタイノデ →  
西日本の山中に  
自生（暖地性）



カタホソイノデ（雑種）  
世界で笠山にしか自生  
していない

出典：草野講師 講座資料

午後からの観察会では、国内では笠山のみで自生するコウライタチバナ（萩市指定天然記念物）をはじめ笠山ならではの多様な植物を観察しました。また、ヤブツバキ群生林では、原生林状態であった森を、明治維新後に里山利用のため伐採サイクルを繰り返した結果、陽光による萌芽と落下した種子の発芽成長が重ねられ現在の自生密度の高い群生林が出来上がったことなど、椿群生林の変遷などを詳しく説明していただきました。

樹木の特徴を知り観察することは、気候変動に伴う変化の気づきにつながり、自然の大切さを考える充実した講座となりました。



# 宇佐川（岩国市錦町）のオオサンショウウオの保護活動

## 特別天然記念物オオサンショウウオ

オオサンショウウオは、岐阜県以西の本州と四国及び大分県に分布し、河川上中流域の清流に生息する「生きた化石」として知られる日本固有種です。体色は茶褐色で、背面には不規則な黒色の斑紋があり、地色が黒いものや黄色みを帯びている個体があり、肉食性で、鼻先に来たものを素早く丸のみにするので、指などを鼻先にだして噛みつかれると危険です。

1952年に国の特別天然記念物に指定され、無許可の捕獲や飼育などは法律で禁止されており、山口県のレッドリスト2018では、より希少性の高い絶滅危惧IA類(CR)\*に指定されています。

※ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い種



オオサンショウウオ

## オオサンショウウオ属の生物学的特徴

- ・世界最大の両生類で、全長150cm以上のものも確認されている
- ・四肢には、前肢4本、後肢5本の指があるが、爪はない
- ・長寿命で、飼育下では少なくとも60年生きた例がある
- ・流水性で河川の上中流域に生息し、一生を水中で過ごす
- ・肉食性で魚類、甲殻類、両生類、水生昆虫などを捕食する
- ・繁殖期には強いオスが河川の巣穴を占拠し、そこに複数のメスが訪れ500個以上の卵を産出
- ・オスは卵と幼生を保護する



オオサンショウウオ（指）



繁殖期のオス(ヌシ)と受精卵 (村田満氏提供)

## 錦川宇佐川水系に生息するオオサンショウウオ

かつて、山口県のオオサンショウウオはほとんどの河川で絶滅したと考えられていましたが、2008年に高川学園中学・高等学校の村田満先生と同校科学部の生徒さんが、錦川支流の宇佐川で個体群を発見したことで、この流域での生息が明らかになりました。

以降、山口県、岩国市、研究者、漁協や地域の方々が協力して、保護、調査研究や啓発活動が行われています。

中でも、高川学園の村田先生は文化財保護法の許可を取得し、同校科学部の生徒さんとともに、2009年から継続してマイクロチップを使ったオオサンショウウオの個体識別、計測や生息状況などを調査されています。

調査に着手された頃は、ほとんどの個体にセンチュウや微胞子虫が寄生し、「痩せ現象」が認められていました。因果関係は不明ですが、砂防堰堤の浚渫工事による河川環境の悪化が推測されたことから、行政が、工事エリアに生息する個体を一時保護するとともに、生息地の再生・復元事業を行い、生息地の保全が図られました。

特筆すべきは、他府県ではチュウゴクサンショウウオとの交雑種が存在し、遺伝子汚染が問題となっていますが、宇佐川に生息する個体は遺伝子検査からも純血種であり極めて希少性が高いことから、ふるさとの宝物として守っていくことが重要です。このため、特別天然記念物や希少種の保護についての啓発も積極的に行われています。

また、高川学園科学部「チームサラマンダー」は、「甦れ！本州西端のオオサンショウウオ…地域住民の協力と保護体制の強化…」と題した、調査・研究成果を一昨年発表され、この研究は「2024年日本自然保護大賞」を受賞しています。



オオサンショウウオ一時保護施設（2018.10撮影）



高川学園チームサラマンダーの発表

※写真は、令和7年9月13日(土)開催 希少野生動物種保護支援員研修会 一オオサンショウウオの生態と保護活動一から



観察会の様子



オオサンショウウオの計測と健康診断



清流王者サラマンダー（白井啓二氏提供）

さらに、2011年に発足した「錦川オオサンショウウオの会」会長の白井啓二氏は、自らが考案したオオサンショウウオをモチーフとしたご当地ヒーローの「清流王者サラマンダー」を、地域イベントなどに登場させ、清流の大切さや保護の重要性を精力的にPRされています。

宇佐川流域では、行政や研究者、地域住民が一体となった保護・啓発活動により、オオサンショウウオがふるさとの宝物として守られ、生物多様性の保全と地域の豊かな自然環境の保全に繋がられています。

参考文献 村田 満 特別天然記念物オオサンショウウオの生息地復元のための研究活動 2023年  
（株）平凡社 決定版 日本の両生爬虫類 2002年  
山口県レッドリスト2018・レッドデータブックやまぐち2019

環境パートナー 吉本 礼希 様

環境パートナー及びネイチャーゲームインストラクターとして、ネイチャーゲームをはじめとした自然体験活動を通して、自然を大切さについて学習する活動に貢献

令和7年度 やまぐちっ子「環境レポート」優秀作品

子ども達が家庭や学校、地域の人たちと一緒に「環境」や「SDGs」について考え、調べ、行動した経験を絵日記やレポート(かべ新聞)で、楽しみながら表現することで、環境に配慮した行動がとれるようになることを目的に実施しました。

最優秀賞

優秀賞

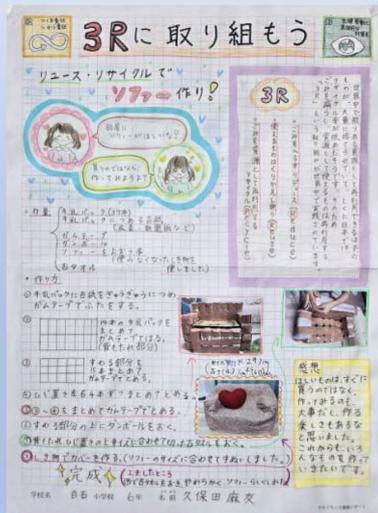
絵日記の部

レポート(かべ新聞)の部

絵日記の部



「楽しく使えば」  
木村 佳奈さん  
光市立室積小学校3年



「3Rに取り組もう」  
久保田 麻友さん  
山口市立白石小学校6年

「草や葉っぱで、ひ料を作る」  
石丸 祥太郎さん 山口市立井関小学校3年  
「海の涙!? シーグラスについて」  
合澤 諒悟さん 下関市立山の田小学校3年

レポート(かべ新聞)の部

「コンポスト新聞」  
田中 星風さん 下関市立山の田小学校4年  
「ごみをへらす新聞」  
阿武 行陽さん 山口市立阿知須小学校4年  
「カレーから考えるエコ新聞」  
油口 なず菜さん 下関市立西山小学校6年  
「植えていないのにヒマワリが育った??」  
蔵田 舜典さん 岩国市立平田小学校6年

環境学習の講演会・学習会を開催してみませんか!!

講師派遣の流れ



環境学習推進センターでは、学校や民間団体などが県内各地で開催する講演会や体験学習会などに、山口県環境学習指導者バンクに登録された、講師・指導者を派遣します。

【講師・指導者の派遣費用は当センターが負担します】

学習会開催日の30日前までに、派遣申請書に必要事項を記入の上、環境学習推進センターに申請してください。申請書を審査し、講師・指導者派遣の可否を通知します。



詳細は、環境学習推進センターにお問い合わせいただくか、ホームページ「環境学習のひろば」をご覧ください。

公益財団法人山口県ひとづくり財団  
県民学習部  
環境学習推進センター

〒754-0893

山口市秋穂二島1062(YMfg維新セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

E-Mail kangaku@hito21.jp

<https://yamaguchi-learning.com/>



地域ESD活動推進拠点

環境学習のひろば